

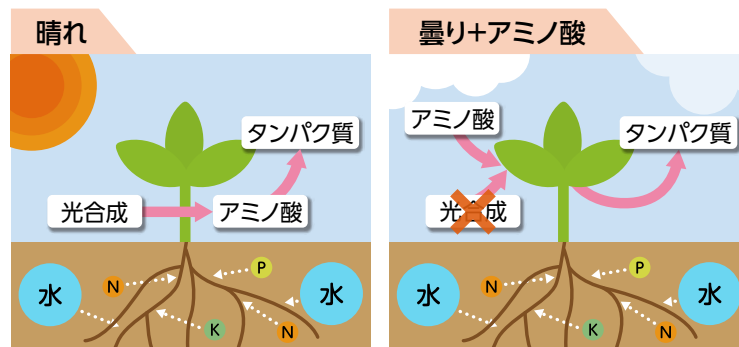
## 持続可能な農業への貢献

考え方  
 GRI203-2

### コプロを原料とした高付加価値肥料

植物は吸収した窒素と光合成によって得られた糖からアミノ酸をつくり、アミノ酸から生長に必要なタンパク質をつくります。光合成が十分にできない曇天や低温でも、肥料としてアミノ酸を与えることで植物の生長を促進することができます。

味の素グループでは40年以上前から、アミノ酸生産時に発生する栄養豊富なコプロを有機肥料として有効利用してきました。コプロを原料に、植物に必要なリン酸、カリウム等をバランス良く配合して、より高付加価値な肥料を開発しています。実験や研究の蓄積によって、アミノ酸を活用した肥料に、根張りを良くしたり、生長を促進したり、収穫量を増加させたりする効果があることが明らかになりつつあります。



実績  
 GRI203-2  
 ▶ P85

### 世界各地で活用される味の素グループの高付加価値肥料

#### ■ 日本

味の素(株)では、アミノ酸発酵工程から発生する副生バイオマスを有効活用して高品質の肥料を生産しています。堆肥の発酵熱を利用した菌体乾燥技術により、アミノ酸の発酵過程で発生する副生物を乾燥させる際に発生していたCO<sub>2</sub>排出量を大きく削減しています。この肥料は、環境負荷を低減するだけでなく、農作物のアミノ酸含有量や糖度を高め品質を安定させることから、農作物の販路が拡大し、九州の農業活性化に寄与しています。味の素(株)は、バリューチェーンの関係者と協働し、この肥料を使って作られた農作物に「九州力作」ブランドを付けて、イオン九州(株)で販売する「九州力作野菜®」「九州力作果物®」プロジェクトを展開しています。

こうした持続可能なバリューチェーン構築への貢献が評価され、本プロジェクトは、2019年12月に、「第3回ジャパンSDGsアワード SDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞」を受賞しました。



授賞式の様子

## 持続可能な原材料調達

### ■ ベトナム

ベトナムは世界有数の米の輸出国です。特に南部のメコンデルタは、年2、3回の稲作が行われる米生産の中心地となっています。この地域では、これまで非有機肥料が使われ続けてきた結果、土壌の肥沃度が低下して米の品質・収量が不安定になり、農家が稲作で生計を立てることが難しくなっています。

味の素社では2007年以降、コプロ「AMI-AMI」(液体肥料)を小規模の試験農場に導入して米の品質・収量を安定させる研究を続けてきました。ベトナムにおけるコプロ事業は、現在では農家の生産コストを抑えつつ土壌の肥沃度を維持し、持続可能な農業につなげる、地域社会にとって不可欠なものとなっています。

### ■ 中国

中国の大都市以外の農業地域で働く農家の多くは、非常に狭い農地(0.1~0.2ha)しか持たない非専業農家であり、高品質の肥料を購入する余裕もなく、悪循環に陥っています。

アグロ2アグリ社(スペイン)では、こうした小規模農家の課題に貢献するため、「小分け包装プロジェクト」を中国で展開しています。手頃な価格で高付加価値肥料を単回投与できるように、専用の包装機を製作するとともに、農家を招いての技術支援を実施しています。その結果、作物の生産性が向上し、農地の節約、温室効果ガスの削減、生活の質の向上等を実現しています。

### ■ タイ

タイにおいては、コプロを活用したバイオサイクルが進化しています。コプロを原料とした高付加価値肥料を契約農家に販売し、そこで生産されたキャベツを味の素グループが購入してギョーザの原料として活用しています。

これにより、キャベツのトレーサビリティを確保するとともに、農家の安定収入とタイの農業振興に貢献しています。また、従来の肥料に比べてキャベツが一玉当たり約1.4倍大きく育つため、中芯を切り落とす作業が減り、ギョーザ生産工場での作業効率の向上にもつながっています。

### ■ ブラジル

ブラジル味の素社(ABR)では、「AJIFOL<sup>®</sup>」をはじめとするコプロ製品を主にコーヒーと果物の農園に販売しています。ABRの提供する肥料は10年以上にわたって使用されており、近年では持続可能な経営を目指す農園が、化学肥料からABRの肥料へ本格的な転換に踏み切る動きも見られます。こうした状況を背景に、ABRでは2020年度からはコプロによる農園支援を本格展開する計画です。

▶ P86